

■ 平成28年2月8日～9日 観光振興対策特別委員会県外調査（宮崎県）

1 2月8日 宮崎県庁（宮崎市橋通東2-10-1）

【調査目的】

記紀編さん1300年記念事業について

【調査概要】

●宮崎県の観光動向等について

・宮崎県の観光入込客数

H22:13,485千人 H23:12,651千人 H24:13,874千人 H25:15,141千人 H26:14,466千人

平成22年の口蹄疫、平成23年の東日本大震災等の影響により非常に厳しい状況にあったが、現在は回復傾向にあるが、全国と比較すると低い水準であり一番の課題である。

・市町村ごとの観光入込客数では、宮崎市の一極集中となっており、県内を周遊する仕掛けが必要である。

・外国人観光客については、平成24年度頃から大きく伸びており、平成26年の宮崎県の訪日外国人延べ宿泊者数は約14万人。内訳は、韓国が65,167人(全体の46.2%)、台湾が31,922人(全体の22.6%)、香港が10,965人(全体の7.8%)であり、3カ国で全体の76.6%を占める。

・H27年4月、神話のふるさと宮崎観光おもてなし推進条例を制定、基本的な理念を定め県等の役割を明らかにし、施策を計画的に推進。

・H27年6月、宮崎県観光振興計画を改訂し、観光入込客等について平成30年度の目標値を定め、「何度も訪れたいくなる・泊まりたいくなる観光地づくり」等を施策の柱として様々な取組を展開。

●記紀編さん1300年記念事業について

・宮崎県には、日本神話発祥の地として古くから語り継がれる数多くの神話や伝説があり、県内各地に神話の舞台となるゆかりの地が点在している。

・古事記編さん1300年の平成24年から、日本書紀編さん1300年の平成32年までの9年間、県民一人ひとりが、地域の資源としっかりと向き合い、日向神話や伝説などの宝を再認識するとともに、県民の力を結集し、その磨き上げや情報発信を行うことにより、地域の活性化や将来の県づくりに繋げていく取組として事業を展開。

・宮崎県では神話をどのように観光に結びつけていくかに的を絞って取り組むことが課題。

<今後の展開について～具体的取組～>

・県外対策として、認知度を上げる、旗を掲げる取組を実施。

①オリンピック開会式での「天岩戸開きの再現」について、他県と差別化した形で展開する取組を図っている。会場誘致等のためリーフレットを作成し、国に対し要望。

②神楽、西都原古墳群について世界遺産登録に向けた取組を実施。

・オピニオンリーダー、神話に関心の高い層へアプローチする取組を実施。

①県外大学との連携講座：首都圏大学(明治、國學院大學等)と連携して講座を開講。

②神話ゆかりの県との連携事業：奈良、島根、三重、和歌山、宮崎5県で取組を実施。

③県外イベント：神楽に力を入れている。200以上の神楽が伝承。神話の世界を具現化したものが残されているのが宮崎県の強みであると捉え、神楽を紹介するパンフレットを作成。

・県内対策として、県民に知ってもらうための取組を実施。

①神話のふるさと県民大学：県民に興味をもってもらい、あらためてふるさとを見直してもらうため、宮崎県内の大学と連携し講座を開講。

②記紀みらい塾：県内の小中高校生を対象とした出前授業を実施。

【質疑応答】

Q：インターネットを利用した取組はされているか。

A：H25年度からじゃらん、楽天と組んでキャンペーンを行っている。今年度はふるさと旅行券と併せて取り組んでいる。特設ページから県内市町村のページへリンクさせた

ころ、昨年度と比較し宿泊数が倍増したところもある。市町村が県と共に取り組むことで相乗効果が出てきた。次年度以降も市町村と共に取り組みたい。

Q 宿泊対策として、ホテル、旅館の状況はどうか。

A 宮崎県の客室稼働率は全国と比較し大変低い状況。ホテル数は、老朽化等により廃業件数が増えているが、ビジネスホテルが増えているため客室数自体はそれほど減少していない。キャンプシーズンは稼働率が非常に高いが、それ以外は厳しいため、プロ以外のスポーツをいかに招致するかという取組が重要になってくる。



2 2月9日 高千穂町役場（宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井13）

【調査目的】

神話と伝説による観光振興について

【調査概要】

- ・高千穂町は宮崎県の最北端に位置し、大分県、熊本県に接している。人口は約13,000人。年間約150万人の観光客が訪れる。ここ数年はアジア圏からの観光客も訪れている。天孫降臨の地と伝えられる。
- ・高千穂地域は宮崎神話の中心的存在であることから、宮崎県が展開している記紀編さん1300年記念事業との連携を密にしながら事業を推進し、従来の観光PRの取組に加えて神話をブラッシュアップした観光誘致に繋げる取組を実施。
- ・平成27年11月に宮崎空港内に町初となるアンテナショップ「神都高千穂そら市場」をオープン。宮崎県の北の玄関口である高千穂町と空の玄関口である宮崎空港が連携することにより、県内への観光客流入を推進することを目的とする。
- ・平成27年度国内での観光キャンペーン等は現時点で東京他13カ所で実施。8月には奈良県平城京天平祭で高千穂の夜神楽公演を実施。その他観光協会が主となるPRも約10カ所で実施。

【質疑応答】

Q：観光客数が年間150万人ということで、大規模な駐車場を整備されてパークアンドバスライドのようなものを実施しているのか、又は各観光地で徐々に整備されているのか。

A：観光客はほぼ高千穂峡を目指して来るが、平地がないため周辺の既存駐車場を拡大したり、近隣に臨時駐車場を準備してシャトルバスを走らせたりして、なんとか回している状況。ゆくゆくは郊外地に大きな駐車場を用意してパークアンドバスライドを検討していかなければならないと考えている。



Q：海外からの旅行者に対して、サインや通訳の状況はどうか。

A：通訳については、人材が少ないため非常に難しい。サインについては、町内周辺の案内看板、歩行者用の案内板について、英語・中国語・韓国語の整備をしている。

3 2月9日 高千穂神社（宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井1037）
天岩戸神社（宮崎県西臼杵郡高千穂町岩戸1073-1）

【調査目的】

神話ゆかりの地について

【調査概要】

＜高千穂神社＞

- ・約1900年前の垂仁天皇時代に創建された。高千穂郷八十八社の総社で、神社本殿と所蔵品の鉄造狛犬一対は国の重要文化財に指定されている。
- ・主祭神は高千穂皇神（タチノミカミ）と十社大明神。特に農産業、厄祓、縁結びの神として広く信仰を集めている。
- ・境内の神楽殿では、毎晩、国の重要無形文化財に指定されている高千穂の夜神楽が奉納されている。

＜天岩戸神社＞

- ・古事記、日本書紀に記される天岩戸神話を伝える神社。天岩戸神話では、天照大神（アマテラス）が弟の素戔鳴命（スサノミコト）の乱暴に怒り、天岩戸と呼ばれる洞窟に隠れた事が記されている。
- ・御神体は天岩戸であり、西本宮から拝観できる。神社脇を流れる岩戸川を挟み対岸に東本宮があり、天照大神が祀られている。
- ・岩戸川上流には、天安河原（アマノカガハラ）がある。天照大神が岩戸に隠れた際に天地暗黒となり、八百万（ヤマト）の神がこの河原に集まり天照大神を外に連れ出す相談をしたと伝えられる。



以上のことから、観光客誘致に向けて、古事記、日本書紀にゆかりの深い地として古事記や日向神話等を活用した観光情報の発信に積極的に取り組まれている。